

平成20年度 第1回

杉並区インターネット区民アンケート
集計結果報告書

「区民による行政評価」について



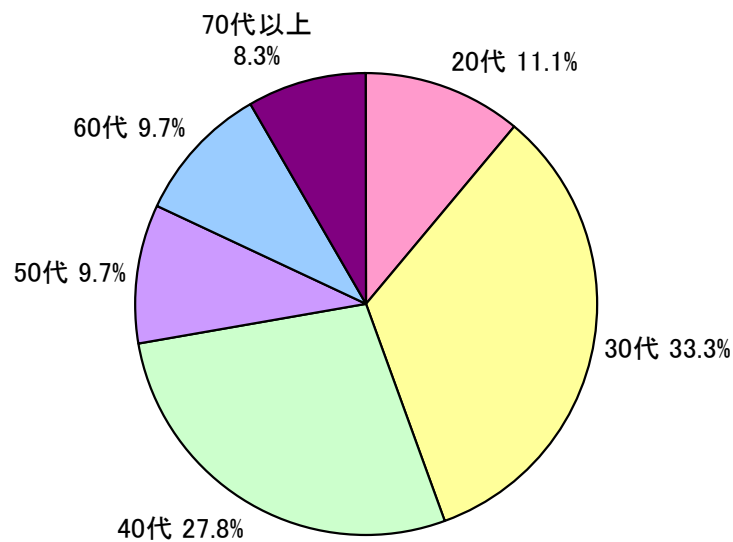
平成20年8月

杉並区区長室区政相談課

調査の概要

- 1 調査の目的 区民の方々が区の事業に対してどのような評価をしているのかを把握し、今後の区事業の見直し、改善に生かすために実施しました。
- 2 調査の内容 「区民による行政評価」について
- 3 調査期間 平成20年8月1日～平成20年8月15日
- 4 回答者数 72人
- 5 回答者構成 単位:人

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上	合計
男性	0	4	7	12	2	3	6	34
女性	0	4	17	8	5	4	0	38
合計	0	8	24	20	7	7	6	72



6 集計・分析にあたって

- (1) 各項の初めにあるNは、回答者数を表している。
- (2) 百分率は、小数第2位を四捨五入して算出しているため、合計が100%にならない場合がある。
- (3) その他の意見と設問10の自由意見は、要約を掲載しました。

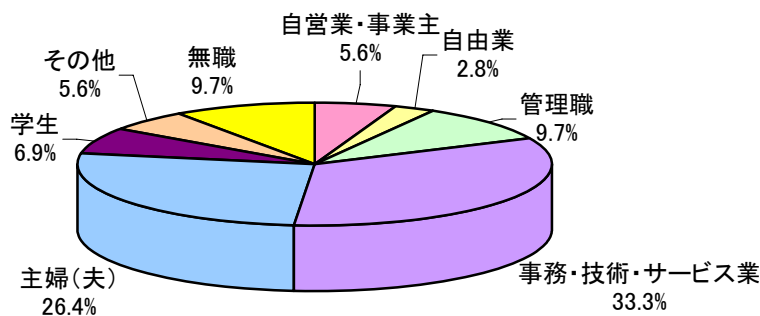
区民による行政評価について

設問1及び2は調査の概要に掲載済み

設問3 あなたの職業をお答えください。

N = 72

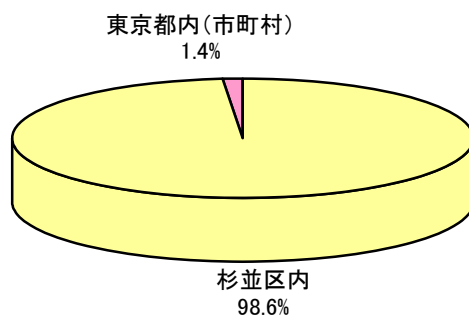
	全体		性別		10・20代	30・40代	50・60代	70代以上
	人数	割合	男性	女性				
① 自営業・事業主	4	5.6%	男性	2		1	1	
			女性	2		1	1	
② 自由業	2	2.8%	男性	1				1
			女性	1		1		
③ 管理職	7	9.7%	男性	5		4	1	
			女性	2		2		
④ 事務・技術・サービス業	24	33.3%	男性	16	2	13	1	
			女性	8		7	1	
⑤ 主婦(夫)	19	26.4%	男性	0				
			女性	19		13	6	
⑥ 学生	5	6.9%	男性	2	2			
			女性	3	3			
⑦ その他	4	5.6%	男性	1			1	
			女性	3	1	1	1	
⑧ 無職	7	9.7%	男性	7		1	1	5
			女性	0				



設問4 あなたはどちらにお住まいですか。あてはまるものを1つだけ選んでください。

N = 72

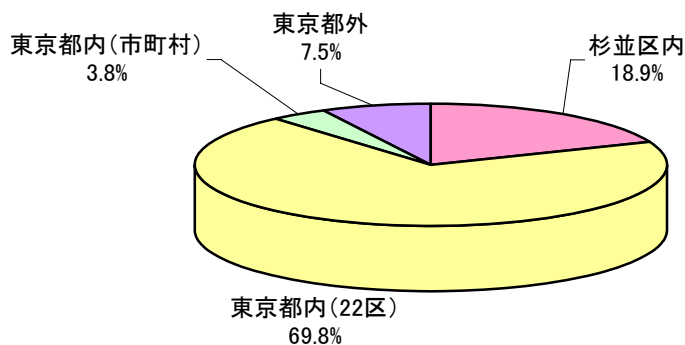
	全体		性別		10・20代	30・40代	50・60代	70代以上
	人数	割合	男性	女性				
① 杉並区内	71	98.6%	男性	34	4	19	5	6
			女性	37	4	24	9	
② 東京都内(22区)	0	0.0%	男性	0				
			女性	0				
③ 東京都内(市町村)	1	1.4%	男性	1		1		
			女性	0				
④ 東京都外	0	0.0%	男性	0				
			女性	0				



設問5 あなたの勤務先や学校の所在地は次のうちのどれですか。あてはまるものを1つだけ選んでください。

N = 53

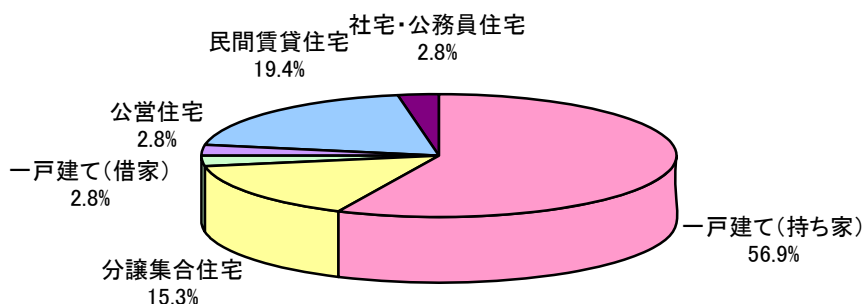
	全体		性別		10・20代	30・40代	50・60代	70代以上
	人数	割合	男性	女性				
① 杉並区内	10	18.9%	男性	2		1		1
			女性	8		7	1	
② 東京都内(22区)	37	69.8%	男性	22	4	14	3	1
			女性	15	2	11	2	
③ 東京都内(市町村)	2	3.8%	男性	0				
			女性	2	1	1		
④ 東京都外	4	7.5%	男性	4		3	1	
			女性	0				



設問6 あなたのお住まいは次のうちのどれですか。あてはまるものを1つだけ選んでください。

N = 72

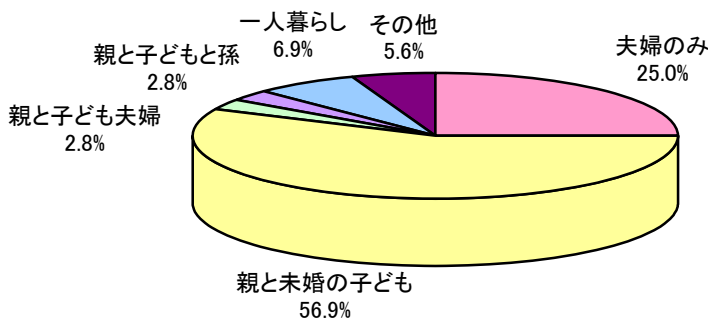
	全体		性別		10・20代	30・40代	50・60代	70代以上
	人数	割合	男性	女性				
① 一戸建て(持ち家)	41	56.9%	男性	16	1	6	4	5
			女性	25	3	13	9	
② 分譲集合住宅	11	15.3%	男性	7	1	5	1	
			女性	4	1	3		
③ 一戸建て(借家)	2	2.8%	男性	0				
			女性	2		2		
④ 公営住宅	2	2.8%	男性	2		1		1
			女性	0				
⑤ 民間賃貸住宅	14	19.4%	男性	8	2	6		
			女性	6		6		
⑥ 社宅・公務員住宅	2	2.8%	男性	1		1		
			女性	1		1		



設問7 あなたのお宅の家族構成は次のうちのどれですか。あてはまるものを1つだけ選んでください。

N = 72

	全体		性別		10・20代	30・40代	50・60代	70代以上
	人数	割合	男性	女性				
① 夫婦のみ	18	25.0%	男性	11	1	2	3	5
			女性	7		5	2	
② 親と未婚の子ども	41	56.9%	男性	14	1	11	2	
			女性	27	4	18	5	
③ 親と子ども夫婦	2	2.8%	男性	1		1		
			女性	1		1		
④ 親と子どもと孫	2	2.8%	男性	1	1			
			女性	1			1	
⑤ 一人暮らし	5	6.9%	男性	5	1	4		
			女性	0				
⑥ その他	4	5.6%	男性	2		1		1
			女性	2		1	1	

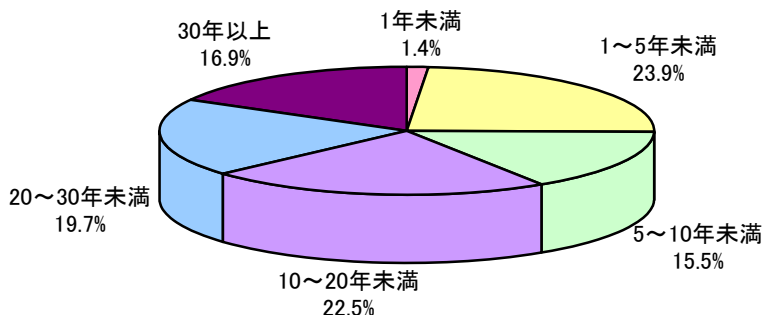


設問8 設問4で「杉並区内」と答えた方にお聞きします。

あなたは杉並区にお住まいになってどのくらいですか。あてはまるものを1つだけ選んでください。

N = 71

	全体		性別		10・20代	30・40代	50・60代	70代以上
	人数	割合	男性	女性				
① 1年未満	1	1.4%	男性	0				
			女性	1		1		
② 1～5年未満	17	23.9%	男性	4		4		
			女性	13	1	12		
③ 5～10年未満	11	15.5%	男性	6	3	2		1
			女性	5		4	1	
④ 10～20年未満	16	22.5%	男性	9		7	1	1
			女性	7	1	5	1	
⑤ 20～30年未満	14	19.7%	男性	8	1	3	4	
			女性	6	2	2	2	
⑥ 30年以上	12	16.9%	男性	7		3		4
			女性	5			5	



1 自転車問題の解決

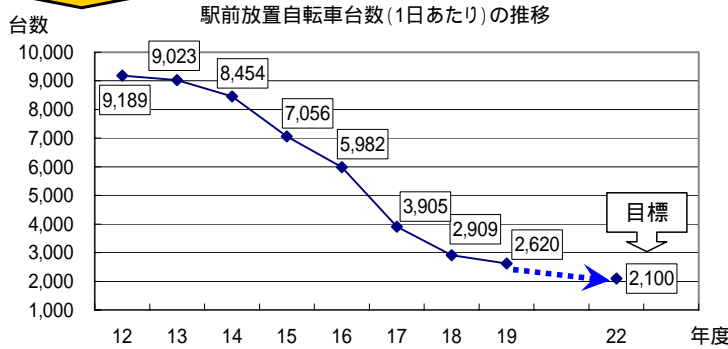
目的と概要

良好な住環境を実現するため、駅周辺の放置自転車の問題に取り組んでいます。自転車は環境にやさしく、自動車の使用を減らすためにも、自転車駐車場の整備を行い利用を促進することが必要です。その一方で、歩きで済む用事には、歩くことを進め、駅周辺の放置自転車の解消をめざしています。区では、平成14年度に策定した「サイクルアクションプログラム」を平成19年度に「自転車利用行動計画」として改定し、その中で数値目標を掲げ、各施策に取り組んでいます。放置自転車台数は、平成22年度までに、平成15年度の7,056台から70%削減し、2,100台以下とすることめざしています。平成19年度は、前年度から289台少ない2,620台まで削減し、目標達成に向け順調に推移しています。

1 目標

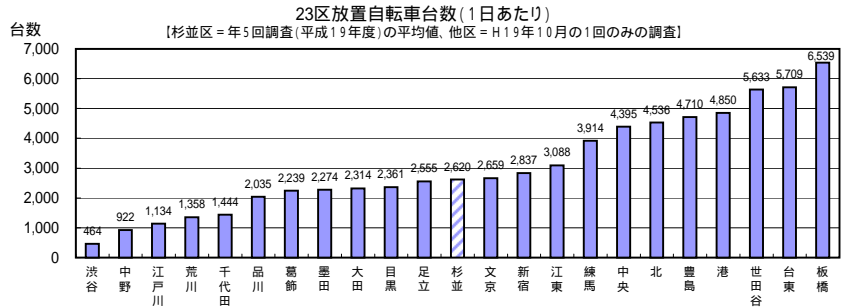
駅前放置自転車を
平成22年度に2,100台に減少させます

2 成果



駅前放置自転車台数とは、区内各駅の放置禁止区域内に放置された台数で、年5回調査の平均値です。19年度は、前年度の2,909台から2,620台へ減少しました。これは、区内全域で、放置防止指導から撤去・返還業務の委託を進め撤去の強化を図ったこと、および、区内の17駅で活動する自転車放置防止協力員等による「放置防止キャンペーン」などの啓発活動の効果といえます。一方で、放置台数が200台以上の駅がまだ3駅あり、歩行を妨げ、交通安全の阻害要因になっています。

23区の放置自転車台数をみると、杉並区は12番目で、中位に位置しています。杉並区は、住宅地で比較的人口が多く、自転車乗り入れ台数が多いことなどが背景にあると考えられます。



3 かけた経費

19年度にこの事業にかかった費用は、人件費と事業費を合わせて、約11億6千万円でした。大きな支出としては、自転車駐車場の運営経費として6億6千万円、自転車の放置防止啓発や放置自転車の撤去・返還・処分に約3億円、自転車駐車場整備経費として1億8千万円などです。また収入としては、自転車駐車場使用料が6億6千万円、撤去手数料が1億3千万円、撤去自転車の売却代金が1千3百万円など、合計で約8億1千万円となりました。この結果、この事業にかかる区民1人あたりの経費は2,173円ですが、使用料・手数料等の収入を差し引いた後の、実負担額は区民1人あたり650円となっています。

区民一人あたりの額
この事業 2,173円
区の全ての事業 45万8千円

4 事業

<19年度に実施した主な事業>

番号	事業名(活動指標)	数量	内容
1	自転車駐車場等を整備しました	2ヶ所	高井戸駅周辺では、500台規模の高井戸北自転車駐車場を整備しました。また、富士見ヶ丘駅北口に284台規模の登録置場を整備しました。
2	放置自転車を撤去しました	65,699台	区内の各駅付近で、延べ1,995回撤去を行いました。
3	自転車放置の防止キャンペーンを実施しました	8日間	自転車利用者を対象に、地域の方たちとともに、協力を呼びかけました。

5 自己評価

<これまでの取組>

自転車駐車場の整備に計画的に取り組んだ結果、現在27,116台収容できる駐車場を確保し、駅前の自転車放置台数は、着実に減少しています。地域の方々が担い手である放置防止協力員による啓発活動も大きな要因となっていると考えられます。さらに鉄道事業者が自転車駐車場の設置や用地提供を求め、現在3,222台分の民営駐輪場が鉄道事業者等により運営されています。

<今後の方向性> 【拡充】

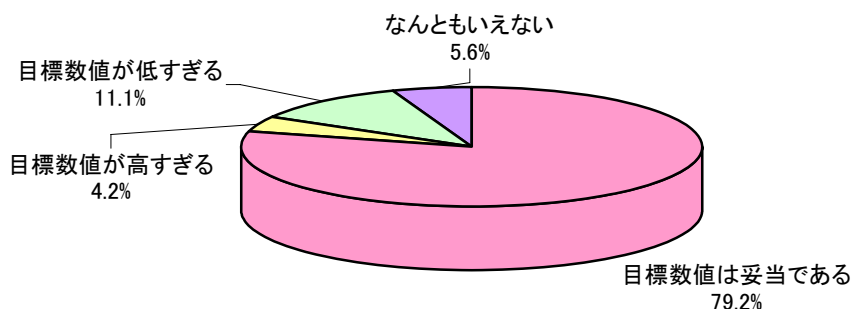
自転車駐車場が未整備の駅周辺に重点的に整備します。20年度は西荻窪駅北口に207台規模の駐車場の整備を進め、東高円寺自転車駐車場の拡張工事を実施します。鉄道事業者と協議し駐車場の設置等を求めます。22年度までに4,200台の自転車駐車場を整備し、放置防止協力員の拡大と支援の充実を図り、撤去の強化を進めます。区民、事業者、区が協力して、駅周辺の自転車問題の解決をめざします。

設問9～13は、別紙資料1をご覧になりながらお答えください。

設問9 資料1の「1.目標」についてどのように思いますか。あてはまるものを1つだけ選んでください。

N = 72

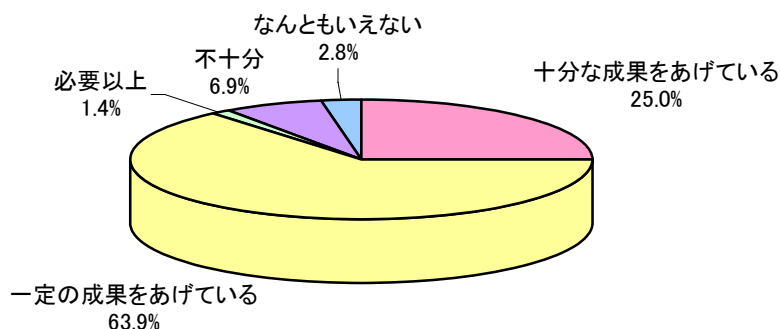
	全体		性別		10・20代	30・40代	50・60代	70代以上
	人数	割合	男性	女性				
① 目標数値は妥当である	57	79.2%	男性	26	2	16	3	5
			女性	31	3	19	9	
② 目標数値が高すぎる	3	4.2%	男性	3	1	1	1	
			女性	0				
③ 目標数値が低すぎる	8	11.1%	男性	3		1	1	1
			女性	5		5		
④ 目標に適さない	0	0.0%	男性	0				
			女性	0				
⑤ なんともいえない	4	5.6%	男性	2	1	1		
			女性	2	1	1		



設問10 資料1の「2.成果」についてどのように思いますか。あてはまるものを1つだけ選んでください。

N = 72

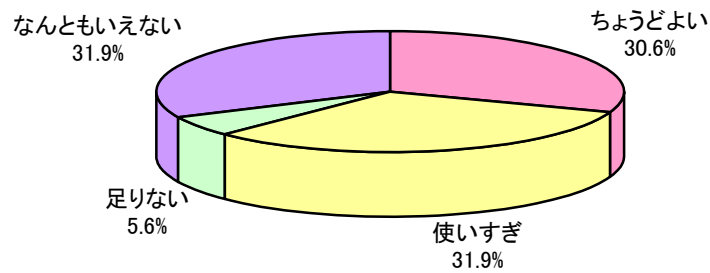
	全体		性別		10・20代	30・40代	50・60代	70代以上
	人数	割合	男性	女性				
① 十分な成果をあげている	18	25.0%	男性	9		6		3
			女性	9	2	6	1	
② 一定の成果をあげている (もう少し)	46	63.9%	男性	19	1	12	4	2
			女性	27	1	19	7	
③ 必要以上(やりすぎ)	1	1.4%	男性	1	1			
			女性	0				
④ 不十分	5	6.9%	男性	3		1	1	1
			女性	2	1		1	
⑤ なんともいえない	2	2.8%	男性	2	2			
			女性	0				



設問11 資料1の「3.かかった費用」についてどのように思いますか。あてはまるものを1つだけ選んでください。

N = 72

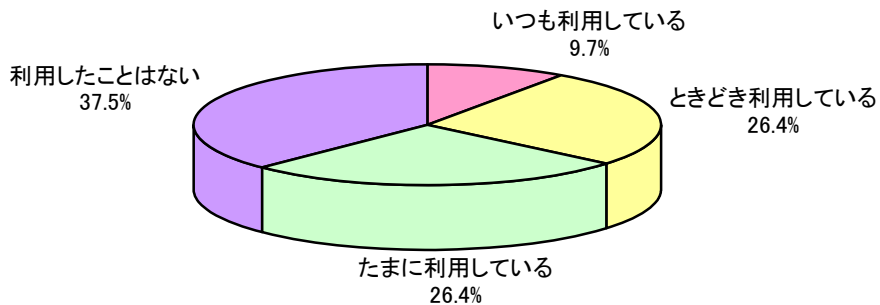
	全体		性別		10・20代	30・40代	50・60代	70代以上
	人数	割合	男性	女性				
① ちょうどよい	22	30.6%	男性	11		8	2	1
			女性	11		10	1	
② 使いすぎ	23	31.9%	男性	11	3	5	1	2
			女性	12	1	9	2	
③ 足りない	4	5.6%	男性	2		1	1	
			女性	2		1	1	
⑤ なんともいえない	23	31.9%	男性	10	1	5	1	3
			女性	13	3	5	5	



設問12 自転車駐車場を利用したことがありますか。あてはまるものを1つだけ選んでください。

N = 72

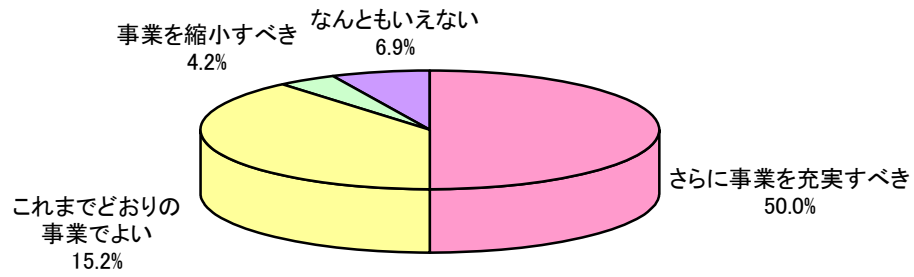
	全体		性別		10・20代	30・40代	50・60代	70代以上
	人数	割合	男性	女性				
① いつも利用している	7	9.7%	男性	3	1	2		
			女性	4		1	3	
② ときどき利用している	19	26.4%	男性	8	1	4	2	1
			女性	11		10	1	
③ たまに利用している	19	26.4%	男性	9	1	6	1	1
			女性	10	2	6	2	
④ 利用したことはない	27	37.5%	男性	14	1	7	2	4
			女性	13	2	8	3	



設問13 資料1の「5.自己評価」にある方向性についてどのように思いますか。あてはまるものを1つだけ選んでください。

N= 72

	全体		性別		10・20代	30・40代	50・60代	70代以上
	人数	割合	男性	女性				
① さらに事業を充実すべき	36	50.0%	男性	15		11	2	2
			女性	21	2	12	7	
② これまでどおりの事業でよい	28	38.9%	男性	13	1	6	2	4
			女性	15	1	12	2	
③ 事業を縮小すべき	3	4.2%	男性	1	1			
			女性	2		1	1	
④ なんともいえない	5	6.9%	男性	4	2	2		
			女性	1	1			



2 ごみの発生抑制及びリサイクルの推進

目的と概要

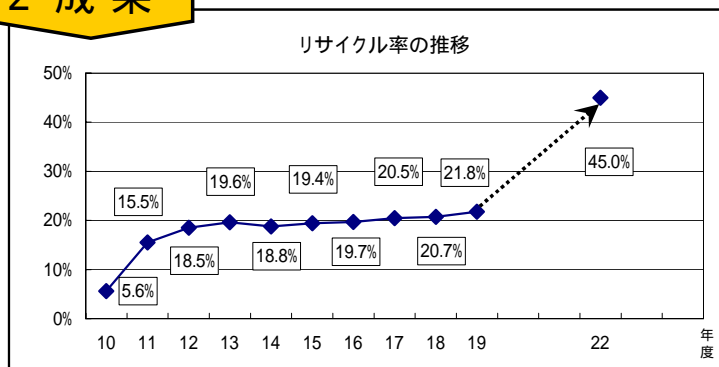
区では、平成20年3月に策定した一般廃棄物処理基本計画の実現に向け、短期目標としては、平成22年度には家庭ごみを一人1日あたり430グラム（平成18年度649グラム）にするとともに、ごみの分別を徹底しリサイクル率を45%（平成18年度20.7%）にする、という高い目標を掲げました。

ごみの減量とリサイクル率の向上に向け、区民・事業者・区が協働してごみの発生抑制や再利用、再生利用を推進していきます。また区は、そのための具体的な仕組みづくりを行っていきます。

1 目標

リサイクル率を平成22年度に45%にします

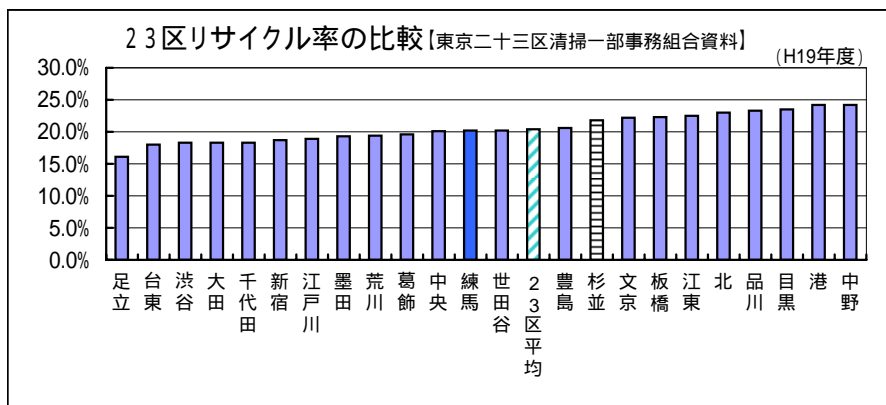
2 成果



リサイクル率とは、排出されるごみ量に占める、古紙やびん・缶、ペットボトル、プラスチック製容器包装が資源物として排出されている割合です。

杉並区のごみ量は、平成2年度以降減少傾向にあります。しかし今後、東京23区では、新たな最終処分場を確保することは困難な状況です。ごみ問題の解決は依然として大きな課題であり、より一層のごみの減量、リサイクルの推進が求められています。

杉並区のリサイクル率は、23区の中では9番目の順位です。23区平均よりも高い割合で、区民のリサイクルに対する意識の高さが数値として現れています。



3 かかった経費

平成19年度の「ごみの発生抑制及びリサイクルの推進」にかかった費用は、人件費と事業費を合わせ、約15億6千万円でした。

事業に占める人件費の比率は、17年度21.1%、18年度13.6%、19年度17.4%となっております。

リサイクル率は着実に伸びて、17年度には20%を超えました。今後も、コストを抑制しながらリサイクルを推進します。

区民一人あたりの額

この事業 2,920円
全ての事業 45万8千円

4 事業

<19年度に実施した主な事業>

番号	事業名(活動指標)	数量	内容
1	資源の回収(区の回収、集団回収)を実施しました	33,863 t	資源回収量は平成18年度に比べ、3.2%増加しました。
2	第4回すぎなみ環境賞を発表しました	-	過剰包装の抑制を一つのテーマに掲げ、「厚着賞」「薄着賞」など5つの部門を設け、賞の選定を行いました。
3	プラスチック製容器包装のリサイクルを進めました	1,409 t	プラスチック製容器包装の回収地域を区内1/3地域で実施しました。

5 自己評価

<これまでの取組>

平成19年度は、区内1/3地域でプラスチック製容器包装を資源として集積所で回収しました。また、ペットボトルの集積所回収も10月から地域を拡大して、約45,000世帯で行いました。この結果、不燃ごみの大半を占めるプラスチックの資源化によるごみの減量とリサイクル率の向上を図りました。これらの事業を通して、リサイクル率の目標達成に向けた基盤整備ができました。

<今後の方向性>

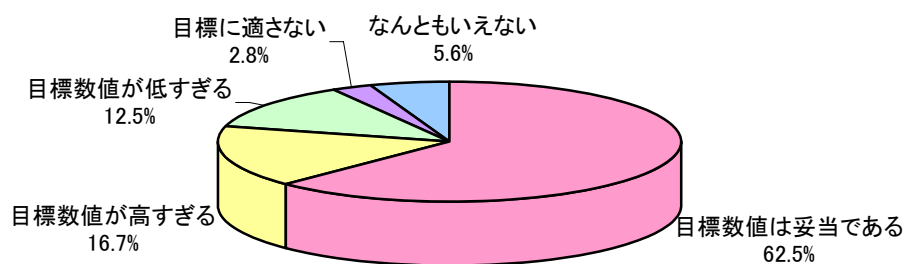
【拡充】

「ごみを限りなくゼロにする社会」の構築を目指すため、平成20年度からプラスチック製容器包装やペットボトルの集積所回収を、区内全域に拡大しました。今後は資源品目の拡大を検討するとともに、レジ袋の有料化を実施し、ごみの発生自体を抑制できるように、区民・事業者と協働しながら、普及・啓発に努めていきます。

設問14～18は、別紙資料2をご覧になりながらお答えください。
 設問14 資料2の「1.目標」についてどのように思いますか。あてはまるものを1つだけ選んでください。

N = 72

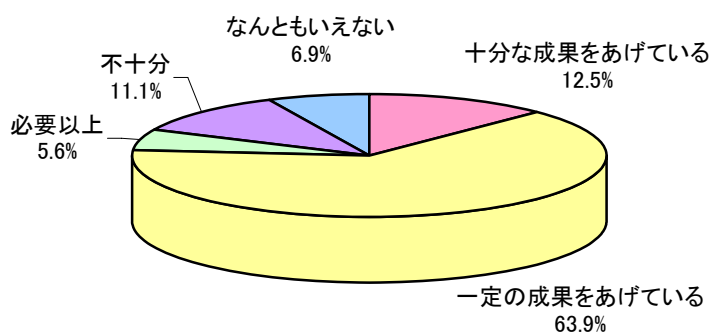
	全体		性別		10・20代	30・40代	50・60代	70代以上
	人数	割合	男性	女性				
① 目標数値は妥当である	45	62.5%	男性	19	1	9	4	5
			女性	26	1	18	7	
② 目標数値が高すぎる	12	16.7%	男性	8	2	5	1	
			女性	4	2	2		
③ 目標数値が低すぎる	9	12.5%	男性	4		3		1
			女性	5	1	2	2	
④ 目標に適さない	2	2.8%	男性	1		1		
			女性	1		1		
⑤ なんともいえない	4	5.6%	男性	2	1	1		
			女性	2		2		



設問15 資料2の「2.成果」についてどのように思いますか。あてはまるものを1つだけ選んでください。

N = 72

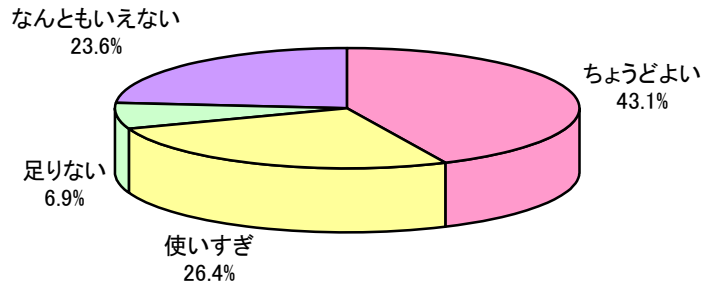
	全体		性別		10・20代	30・40代	50・60代	70代以上
	人数	割合	男性	女性				
① 十分な成果をあげている	9	12.5%	男性	4		4		
			女性	5		3	2	
② 一定の成果をあげている (もう少し)	46	63.9%	男性	22	1	11	4	6
			女性	24	3	14	7	
③ 必要以上(やりすぎ)	4	5.6%	男性	2	1	1		
			女性	2		2		
④ 不十分	8	11.1%	男性	4		3	1	
			女性	4		4		
⑤ なんともいえない	5	6.9%	男性	2	2			
			女性	3	1	2		



設問16 資料2の「3.かかった費用」についてどのように思いますか。あてはまるものを1つだけ選んでください。

N = 72

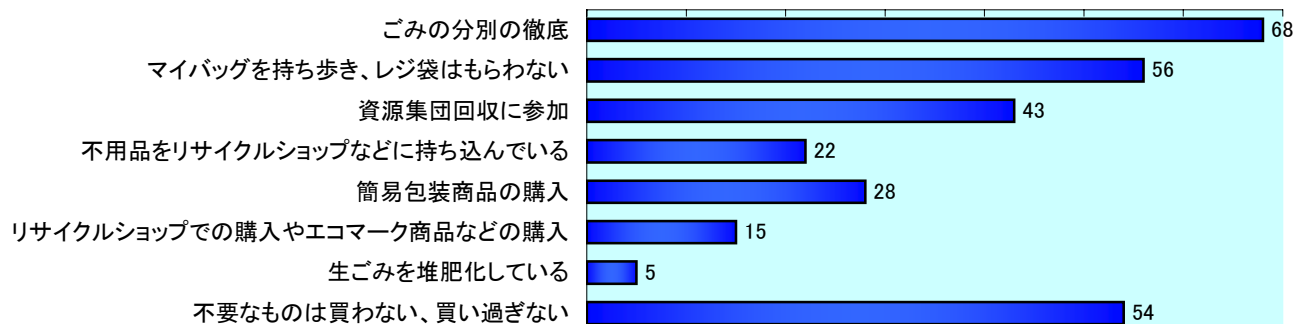
	全体		性別		10・20代	30・40代	50・60代	70代以上
			男性	女性				
① ちょうどよい	31	43.1%	男性	15		8	3	4
			女性	16	2	8	6	
② 使いすぎ	19	26.4%	男性	8	2	4	1	1
			女性	11		10	1	
③ 足りない	5	6.9%	男性	3		2	1	
			女性	2		2		
④ なんともしえない	17	23.6%	男性	8	2	5		1
			女性	9	2	5	2	



設問17 ごみの発生抑制やリサイクルに関連して、あなたが取り組んでいるものは次のうちのどれですか。あてはまるものをすべて選んでください。

N = 72

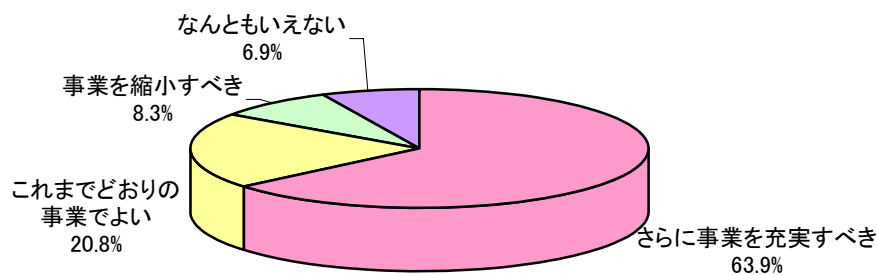
	全体		性別		10・20代	30・40代	50・60代	70代以上
			男性	女性				
① ごみの分別の徹底 (可燃・不燃・資源)	68	94.4%	男性	33	3	19	5	6
② マイバッグを持ち歩き、レジ袋はもらわない	56	77.8%	男性	22	3	10	3	6
			女性	34	3	23	8	
③ 資源(缶・ビン・古紙)集団回収に参加	43	59.7%	男性	14	1	8	3	2
			女性	29	2	19	8	
④ 不用品をリサイクルショップなどにも持ち込んでいる	22	30.6%	男性	8	1	5	1	1
			女性	14	1	9	4	
⑤ 簡易包装商品の購入	28	38.9%	男性	7		3	2	2
			女性	21	1	15	5	
⑥ リサイクルショップでの購入やエコマーク商品などの購入	15	20.8%	男性	3		2	1	
			女性	12	1	7	4	
⑦ 生ごみを堆肥化している	5	6.9%	男性	0				
			女性	5		3	2	
⑧ 不要なものは買わない、買い過ぎない	54	75.0%	男性	25	4	13	3	5
			女性	29	2	18	9	



設問18 資料2の「5.自己評価」にある方向性についてどのように思いますか。あてはまるものを1つだけ選んでください。

N= 72

	全体		性別		10・20代	30・40代	50・60代	70代以上
	人数	割合	男性	女性				
① さらに事業を充実すべき	46	63.9%	男性	20		13	2	5
			女性	26	2	16	8	
② これまでどおりの事業でよい	15	20.8%	男性	7	1	2	3	1
			女性	8	1	6	1	
③ 事業を縮小すべき	6	8.3%	男性	3	1	2		
			女性	3		3		
④ なんともいえない	5	6.9%	男性	4	2	2		
			女性	1	1			



3 保育の充実

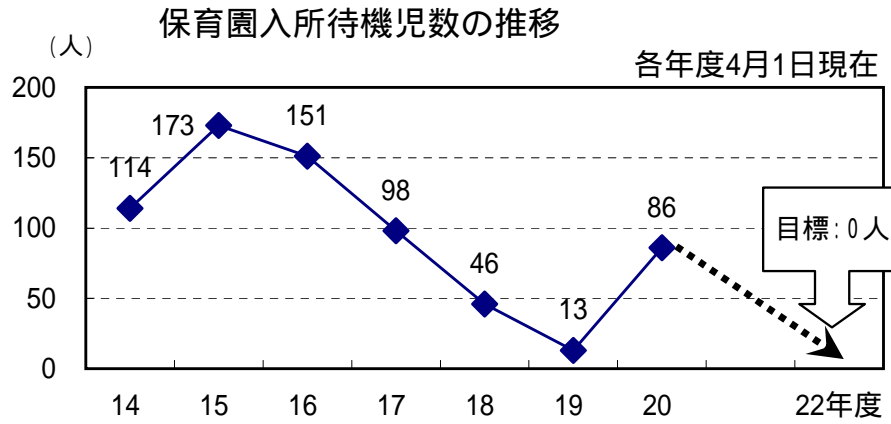
目的と概要

少子化が進む一方、経済状況の変化や就労形態の多様化に伴い、保育需要は増大しています。区では子育てと就労の両立を支援するため、区立保育園の入所定員の見直しや認証保育所等の拡充などにより定員の拡大を図り、入所待機児の解消をめざしています。また、延長保育、産休明け保育、病児・病後児保育など保護者の多様な保育ニーズに応じたサービスを提供するとともに、在籍している乳幼児の健全な心身の発達を図るためのきめ細やかな支援を行います。

1 目標

保育園入所待機児を平成22年度までにゼロにします

2 成果

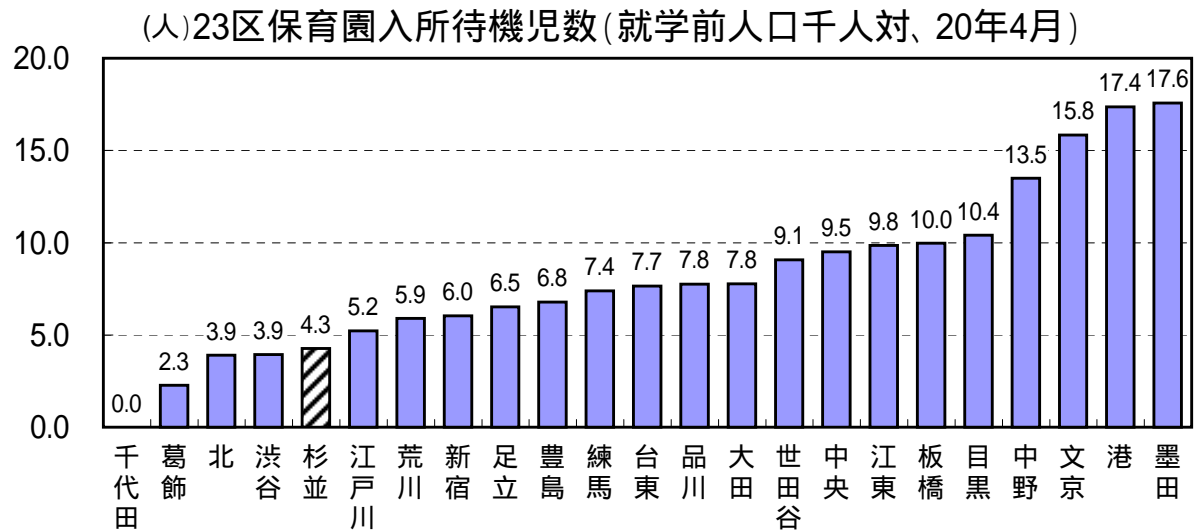


15年度以降、保育園の入所定員増や認証保育所の整備などの取組により、年々待機児童数は減少してきましたが、19年度中に乳幼児人口の増加が続き、保育需要増と重なって、平成20年4月1日現在、86名に待機児が増えました。

入所待機児を解消するための緊急対策として、認証保育所の整備計画を前倒しして、20年度中に3所整備することとしています。

平成19年4月時点での待機児数13人は、23区の中で2番目に少ない数でしたが、平成20年4月時点の待機児数86人は、23区の中で少ないほうから10番目となっています。

また、待機児数を子どもの人口の比率で見ると、平成20年4月時点で千人あたり4.3人と、23区中、5番目に少ない数となっています。



3 かかった経費

平成19年度に公立私立あわせて5,119人の保育園児の保育や、認証保育所・グループ保育室の開設・運営などにかかった費用は、約123億円でした。この内、人件費は約75億円、事業費は約48億円となっています。

また、歳入としては、保育料12億1千万円、国・都からの補助金5億7千万円などでした。

区民一人あたりの額

この事業 23,050円
区の全ての事業 45万8千円

4 事業

< 19年度に実施した主な事業 >

番号	事業名(活動指標)	数量	内容
1	認証保育所を開設しました	2所	ポピンズナーサリー阿佐ヶ谷と、にじいる保育園サクセス荻窪を開設し、入所定員を60名増やしました。
2	病児保育事業を開始しました	1所	保育施設等に通う乳幼児が発熱等の急な病気になった場合の保育所として、病児保育所を開所しました。
3	延長保育を行う園を拡充しました	4所	新たに井荻保育園、中瀬保育園、荻窪保育園、和泉保育園で延長保育を開始し、延長保育実施園が30園になりました。

5 自己評価

< これまでの取組 >

- 17年度から19年度までの取組は次のとおりです。
- ・公立私立保育園の定員を4,970人から5,119人に増やしました。
 - ・認証保育所を5所開設しました。
 - ・区立保育園の公設民営化を2園実施しました。
 - ・延長保育を実施する園を10園拡充しました。
 - ・病児保育事業を開始しました。

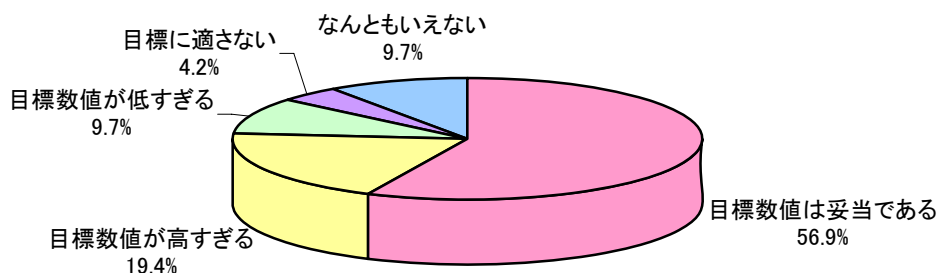
< 今後の方向性 > 【拡充】

働きながら子育てできる環境を整えるため、保育園入所待機児の解消を目指すとともに、保護者のライフスタイルに合わせた多様な保育ニーズに応える取組を推進していきます。
民間活力の導入により、効率化を図っていきます。

設問19～23は、別紙資料3をご覧になりながらお答えください。
 設問19 資料3の「1.目標」についてどのように思いますか。あてはまるものを1つだけ選んでください。

N = 72

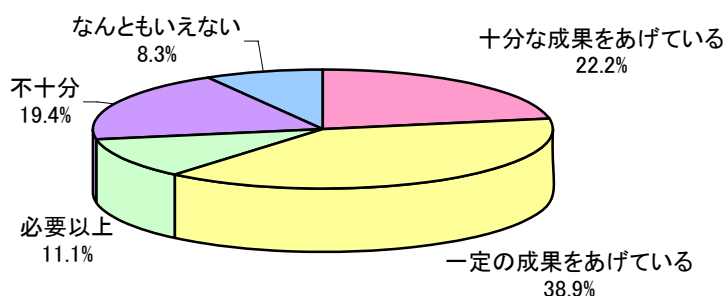
	全体		性別		10・20代	30・40代	50・60代	70代以上
	人数	割合	男性	女性				
① 目標数値は妥当である	41	56.9%	男性	21	2	12	2	5
			女性	20	1	13	6	
② 目標数値が高すぎる	14	19.4%	男性	6	2	2	2	
			女性	8	1	7		
③ 目標数値が低すぎる	7	9.7%	男性	2		1	1	
			女性	5	2	3		
④ 目標に適さない	3	4.2%	男性	1		1		
			女性	2		1	1	
⑤ なんともいえない	7	9.7%	男性	4		3		1
			女性	3		1	2	



設問20 資料3の「2.成果」についてどのように思いますか。あてはまるものを1つだけ選んでください。

N = 72

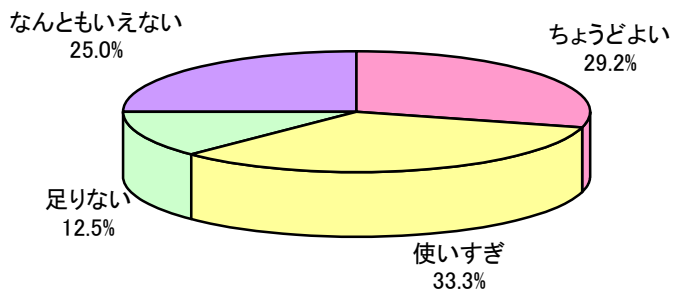
	全体		性別		10・20代	30・40代	50・60代	70代以上
	人数	割合	男性	女性				
① 十分な成果をあげている	16	22.2%	男性	10	2	5	1	2
			女性	6		2	4	
② 一定の成果をあげている (もう少し)	28	38.9%	男性	16		8	4	4
			女性	12	1	9	2	
③ 必要以上(やりすぎ)	8	11.1%	男性	4	2	2		
			女性	4		3	1	
④ 不十分	14	19.4%	男性	2		2		
			女性	12	3	9		
⑤ なんともいえない	6	8.3%	男性	2		2		
			女性	4		2	2	



設問21 資料3の「3.かかった費用」についてどのように思いますか。あてはまるものを1つだけ選んでください。

N = 72

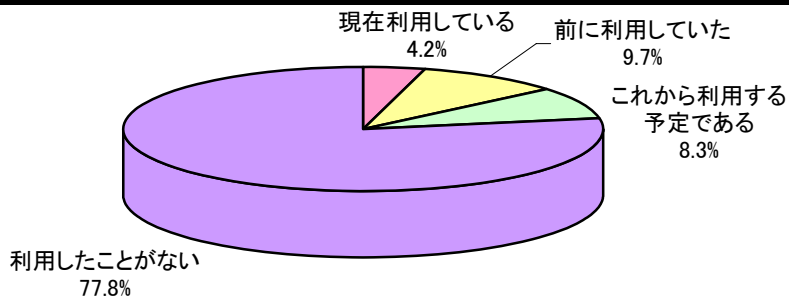
	全体		性別		10・20代	30・40代	50・60代	70代以上
	人数	割合	男性	女性				
① ちょうどよい	21	29.2%	男性	13	2	4	3	4
			女性	8		7	1	
② 使いすぎ	24	33.3%	男性	11	2	7	1	1
			女性	13	1	6	6	
③ 足りない	9	12.5%	男性	3		2	1	
			女性	6	1	4	1	
④ なんともいえない	18	25.0%	男性	7		6		1
			女性	11	2	8	1	



設問22 あなた、またはあなたのご家族は保育園を利用していますか。あてはまるものを1つだけ選んでください

N = 72

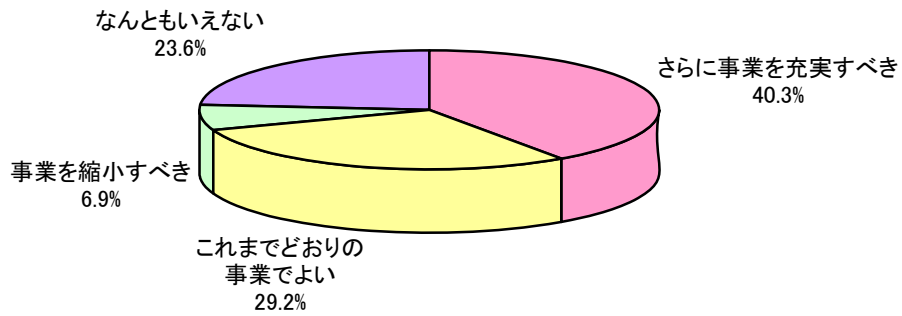
	全体		性別		10・20代	30・40代	50・60代	70代以上
	人数	割合	男性	女性				
① 現在利用している	3	4.2%	男性	0				
			女性	3		3		
② 前に利用していた	7	9.7%	男性	1		1		
			女性	6	1	3	2	
③ これから利用する予定である	6	8.3%	男性	1		1		
			女性	5		4	1	
④ 利用したことがない (利用する予定もない)	56	77.8%	男性	32	4	17	5	6
			女性	24	3	15	6	



設問23 資料3の「5.自己評価」にある方向性についてどのように思いますか。あてはまるものを1つだけ選んでください。

N = 72

	全体		性別		10・20代	30・40代	50・60代	70代以上
	人数	割合	男性	女性				
① さらに事業を充実すべき	29	40.3%	男性	9		6	2	1
			女性	20	2	14	4	
② これまでどおりの事業でよい	21	29.2%	男性	15	2	5	3	5
			女性	6	1	3	2	
③ 事業を縮小すべき	5	6.9%	男性	3	1	2		
			女性	2		2		
④ なんともいえない	17	23.6%	男性	7	1	6		
			女性	10	1	6	3	



4 NPO・ボランティアなどが活動しやすい環境整備

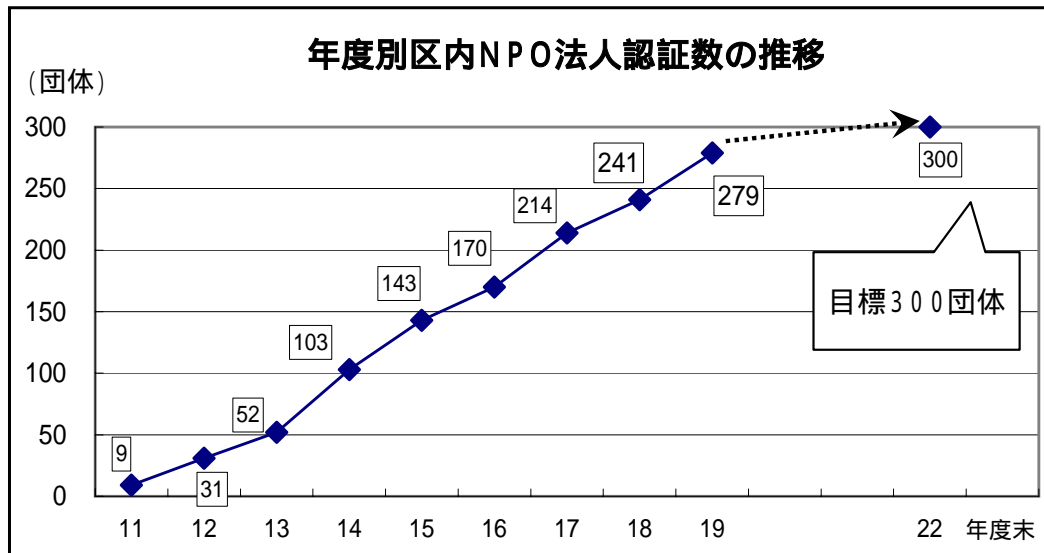
目的と概要

区内では、環境、福祉、教育など多くの分野で公共サービスの創造を得意とするNPO・市民活動団体によって、住民が必要とするサービスを住民自らの手で提供していく活動が広がっています。行政の業務もNPO等と協働することで、より住民ニーズに沿った公共サービスを提供することが可能となりました。今後、団塊の世代の方々を中心に、様々な知識や経験、能力を持った区民の方がより一層地域活動に参加し活躍されることが予想されます。その方々が持てる力を発揮し、地域活動に参加する契機となるよう、すぎなみ地域大学では、様々な講座を開催するとともに、すぎなみNPO支援センターでは、区民のNPO・ボランティア活動への参加を支援し、区内のNPO団体の増加を図ります。

1 目標

区内で活動しているNPO法人認証団体を平成22年度までに300団体に増やします

2 成果

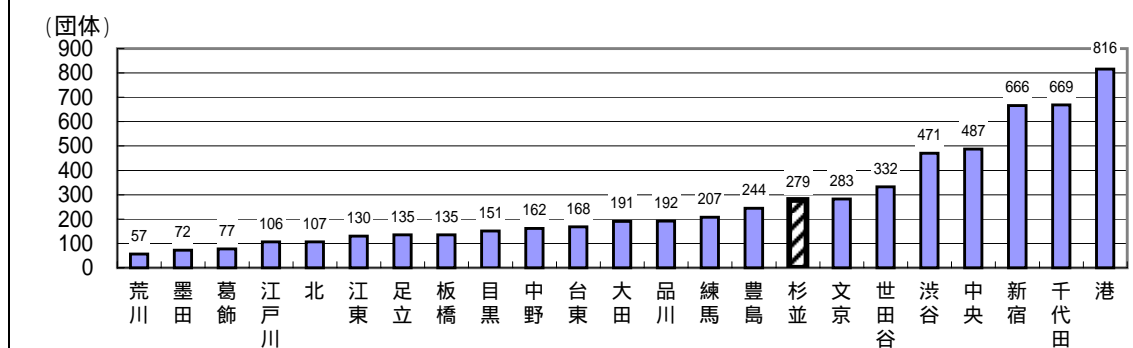


区内NPO法人認証数とは、杉並区内に主たる事務所を持ち、内閣府もしくは東京都の認証を受けている法人の数をいいます。「特定非営利活動法人(NPO法人)」として法人格を付与する「特定非営利活動促進法」は、平成10年12月1日に施行されました。杉並区では平成11年度末の区内NPO法人はわずか9団体でしたが、その後、年々増加しています。平成19年度末は平成11年度末の法人数と比較すると、31倍の伸び率となっており、全国の20倍、東京都の15倍に比べても大変高くなっています。

NPO法人の認証団体数を23区と比較すると、杉並区は8番目に位置しています。

団体の活動分野としては、17分野のうち、保健・医療・福祉の増進、社会教育の推進を図る分野での活動が多くなっています。

23区NPO法人認証団体数(H20.3.31現在)



3 かけた経費

19年度にこの事業にかかった費用は、人件費と事業費を合わせて、約1億2千万円でした。支出としては、すぎなみNPO支援センターの維持運営経費3千万円、すぎなみ地域大学運営費2千3百万円でした。また、歳入としては、NPO支援基金への寄附金が230万円で前年と比べて130万円の減となりました。

区民一人あたりの額

この事業 225円
区の全ての事業 45万8千円

4 事業

<19年度に実施した主な事業>

番号	事業名(活動指標)	数量	内容
1	NPO支援基金の普及啓発を行い寄附を募りました	2,294千円	区内で活動している団体へ活動資金を助成するために、基金の普及啓発と募金活動を区内で行われるイベントで行いました。
2	NPO団体等からの相談を受付けました	1,919件	NPO設立の手続き・NPOの事業運営等活動に関する様々な相談を受付けました。
3	担い手の育成に取り組みました(講座受講者数)	764名	講座開講数を昨年度の倍の24講座とし、多様な協働事業の担い手の育成に取り組みました。

5 自己評価

<これまでの取組>

NPO等が活動しやすい環境の整備を行うため平成14年に開設したNPO・ボランティア活動推進センターは、NPO等の中間支援組織としての一層の機能拡充を図るため、平成18年4月「すぎなみNPO支援センター」に改組しました。すぎなみNPO支援センターでは、相談業務やNPOの組織運営に関する専門・実務講座の開催を通して、NPO等の組織活動支援を行っています。ボランティア活動については、社会福祉協議会がこれまでの実績を生かして「杉並ボランティア・地域福祉推進センター」で引き続き支援を行っています。

また、平成18年度に地域活動に必要な知識・技術を学び、仲間を助け、自らが地域社会に貢献するための新しい仕組みとして、すぎなみ地域大学を開校しました。当初12講座でスタートした講座数も19年度には24講座に拡充し、定員を超える受講申込がありました。さらに、修了者のうち、7割を超える方が、新団体の設立・既存団体への加入・行政事業等への登録を行うなど、地域活動に取り組んでいます。

<今後の方向性> 【拡充】

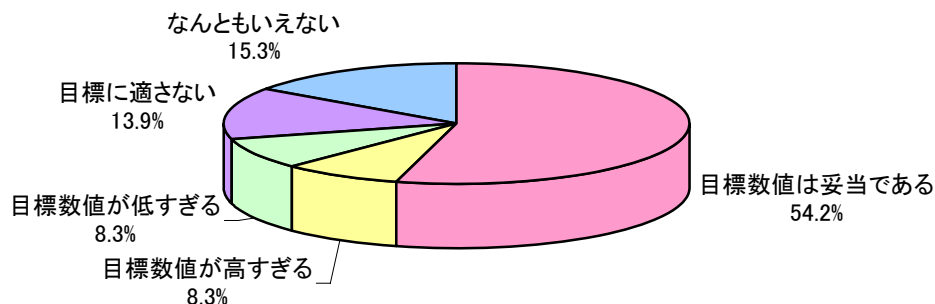
NPO・ボランティアなどが活動しやすい環境の整備のため、すぎなみNPO支援センターの中間支援組織としての機能の拡充、NPO支援基金制度の周知及び寄附金の確保に向けた取組を一層推進していきます。

すぎなみ地域大学は、区民の地域活動への参加意欲を一層喚起できるような講座を開講するとともに、講座の構想段階から受講後の活動段階まで、すぎなみNPO支援センターをはじめとした地域における関係機関や区の事業所管課との連携を強め、修了者を地域活動へつなげるための支援を強化していきます。

設問24～28は、別紙資料4をご覧になりながらお答えください。
 設問24 資料4の「1.目標」についてどのように思いますか。あてはまるものを1つだけ選んでください。

N = 72

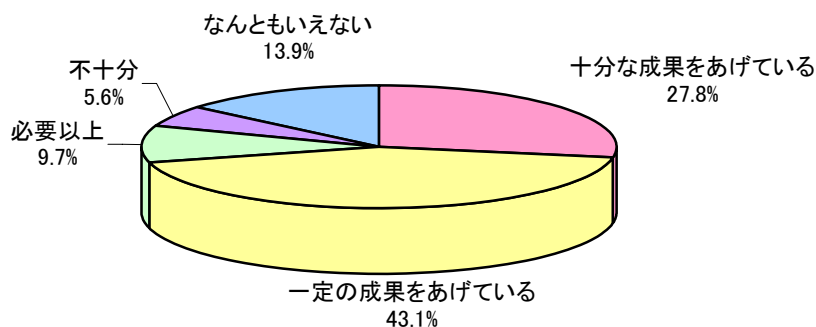
	全体		性別		10・20代	30・40代	50・60代	70代以上
	人数	割合	男性	女性				
① 目標数値は妥当である	39	54.2%	男性	20	1	12	3	4
			女性	19	2	12	5	
② 目標数値が高すぎる	6	8.3%	男性	1		1		
			女性	5		4	1	
③ 目標数値が低すぎる	6	8.3%	男性	0				
			女性	6	1	2	3	
④ 目標に適さない	10	13.9%	男性	7	2	3	2	
			女性	3	1	2		
⑤ なんともいえない	11	15.3%	男性	6	1	3		2
			女性	5		5		



設問25 資料4の「2.成果」についてどのように思いますか。あてはまるものを1つだけ選んでください。

N = 72

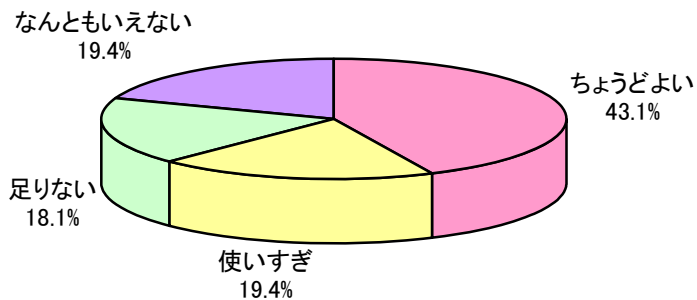
	全体		性別		10・20代	30・40代	50・60代	70代以上
	人数	割合	男性	女性				
① 十分な成果をあげている	20	27.8%	男性	8		7	1	
			女性	12	2	7	3	
② 一定の成果をあげている (もう少し)	31	43.1%	男性	18	1	8	3	6
			女性	13	1	9	3	
③ 必要以上(やりすぎ)	7	9.7%	男性	3	1	1	1	
			女性	4		4		
④ 不十分	4	5.6%	男性	0				
			女性	4		1	3	
⑤ なんともいえない	10	13.9%	男性	5	2	3		
			女性	5	1	4		



設問26 資料4の「3.かかった費用」についてどのように思いますか。あてはまるものを1つだけ選んでください。

N = 72

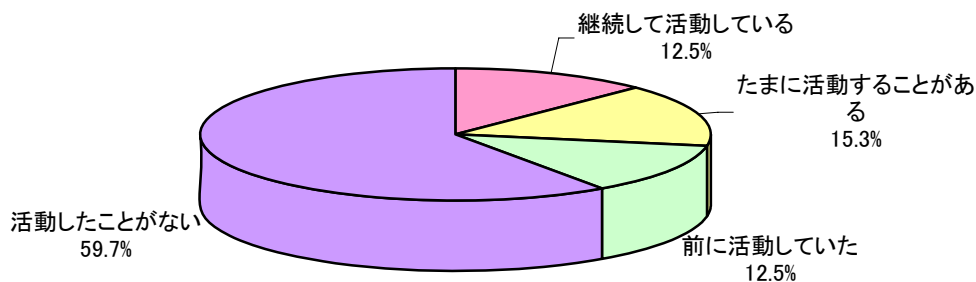
	全体		性別		10・20代	30・40代	50・60代	70代以上
	人数	割合	男性	女性				
① ちょうどよい	31	43.1%	男性	16		10	4	2
			女性	15	3	9	3	
② 使いすぎ	14	19.4%	男性	7	1	5		1
			女性	7	1	6		
③ 足りない	13	18.1%	男性	4	1	2	1	
			女性	9		4	5	
④ なんともいえない	14	19.4%	男性	7	2	2		3
			女性	7		6	1	



設問27 ボランティアや地域の団体の活動をしていますか。あてはまるものを1つだけ選んでください。

N = 72

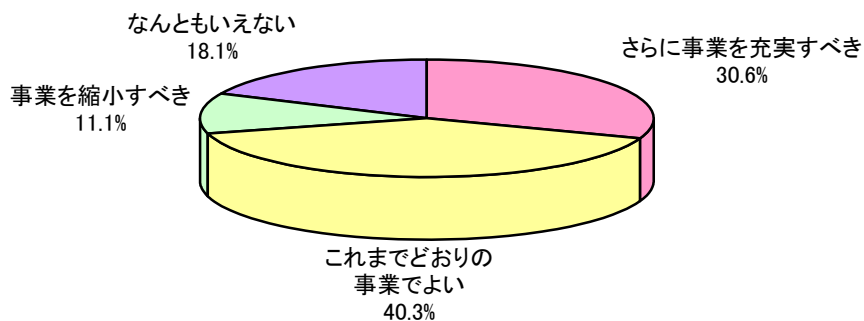
	全体		性別		10・20代	30・40代	50・60代	70代以上
	人数	割合	男性	女性				
① 継続して活動している	9	12.5%	男性	2	1	1		
			女性	7	1	2	4	
② たまに活動することがある	11	15.3%	男性	5	1	3		1
			女性	6	1	4	1	
③ 前に活動していた	9	12.5%	男性	5		2	1	2
			女性	4	1	3		
④ 活動したことがない	43	59.7%	男性	22	2	13	4	3
			女性	21	1	16	4	



設問28 資料4の「5.自己評価」にある方向性についてどのように思いますか。あてはまるものを1つだけ選んでください。

N= 72

	全体		性別		10・20代	30・40代	50・60代	70代以上
	人数	割合	男性	女性				
① さらに事業を充実すべき	22	30.6%	男性	8		6	1	1
			女性	14	1	8	5	
② これまでどおりの事業でよい	29	40.3%	男性	13		7	2	4
			女性	16	3	9	4	
③ 事業を縮小すべき	8	11.1%	男性	5	1	2	2	
			女性	3		3		
④ なんともいえない	13	18.1%	男性	8	3	4		1
			女性	5		5		



5 豊かな学校教育づくり

目的と概要

区立小中学校に通う児童・生徒が毎日の学校生活を楽しく過ごせるよう「学ぶ喜び」「遊ぶ喜び」「生きる喜び」に満ちた魅力ある「豊かな学校づくり」を推進し、創意工夫ある教育指導により児童・生徒の基礎学力や学習意欲の向上を図っていきます。

1 目標

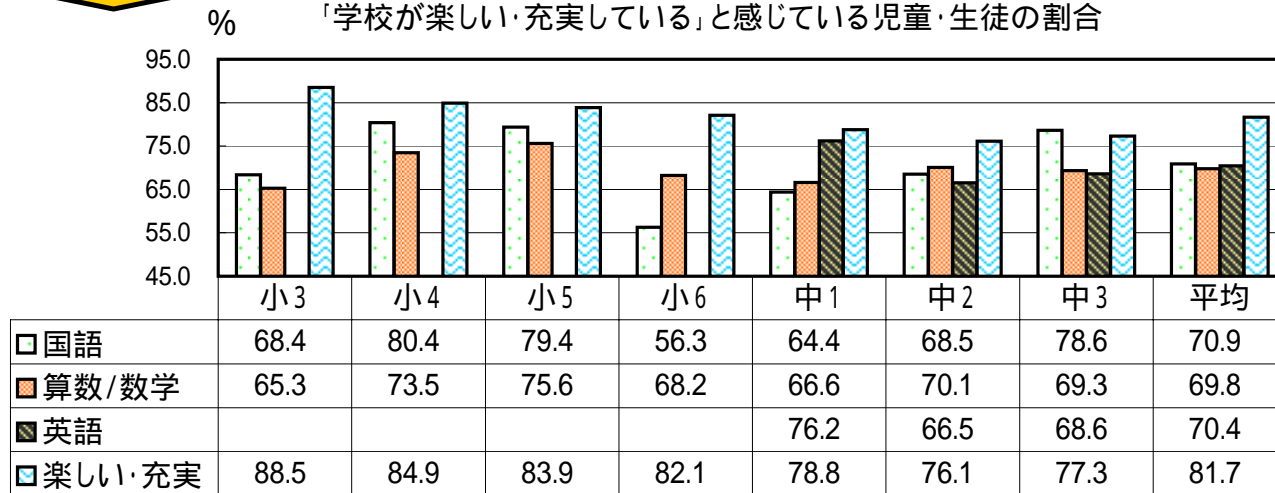
平成22年度までに児童・生徒の

- ・区学力等調査の目標達成率（各教科平均）を75%以上に
- ・学校生活が充実していると感じる割合を85%以上に

向上させます

2 成果

平成18年度 区学力等調査の学年別・教科別の目標達成率と「学校が楽しい・充実している」と感じている児童・生徒の割合

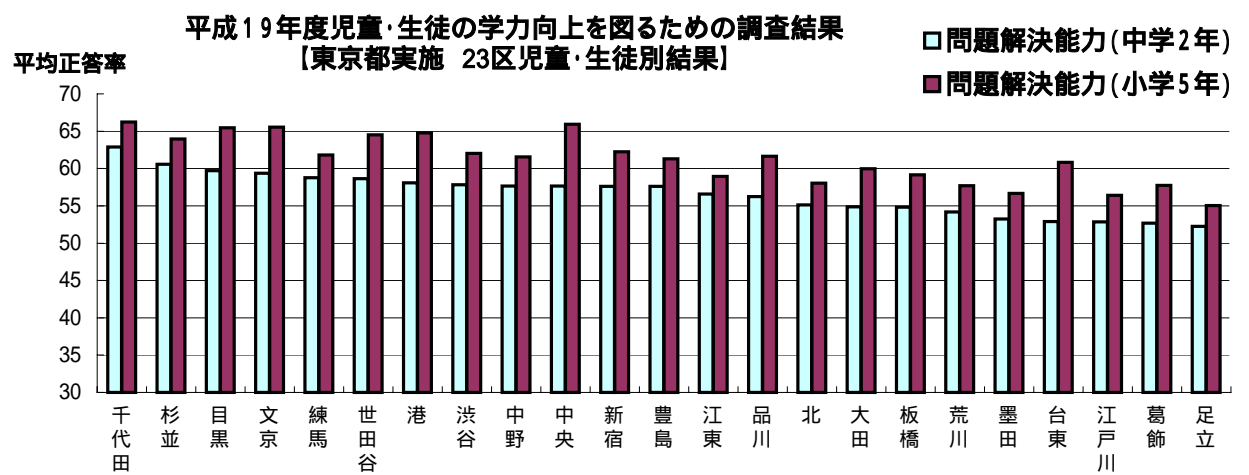


目標達成率とは、区が実施した学力等調査において、その結果が設定した目標値以上であった児童・生徒数の割合を示しています。グラフ中の「平均」の項目は各学年の達成率を単純に平均した数値です。

グラフは平成18年度の実績です。平成19年度は学力等調査の見直し検討を行ったため、学力等調査は行いませんでした。実施方法等の見直しの結果、2月に実施していた調査は平成20年度から5月に実施します。平成19年度は問題作成等の準備を行いました。

都が実施した「平成19年度児童・生徒の学力向上を図るための調査」結果における杉並区の平均正答率は、小学生は23区中第7位、都内49区市中第9位の順位となっています。

また、中学生は23区中第2位、都内49区市中第4位との結果となっています。



3 かかった経費

この施策にかかった19年度の経費は、人件費と事業費とをあわせて約13億8百万円でした。大きな支出としては、ICT活用授業の環境整備等のための情報教育の推進事業として約2億9千4百万円支出したのをはじめ、校舎屋上緑化、校庭芝生化等のエコスクールの推進事業に約2億3千9百万円、区立小中学校の移動教室事業として約2億1千6百万円、教育相談事業として約1億1千5百万円、を支出しました。なお、歳入としては、エコスクールの推進事業や教育調査研究事業等に対して、国・都からの交付金が約1億5千9百万円ありました。

区民一人あたりの額

この事業 2,447円
区の全ての事業 45万8千円

4 事業

< 19年度に実施した主な事業 >

番号	事業名（活動指標）	数量	内容
1	全小中学校で区独自の体力等調査を実施しました（学力調査は未実施）	体力等調査 18,716人	8種目の全学年の杉並区平均値について東京都平均値（平成18年度結果）を100とした場合の数値は101.0でした。
2	中学校で外国人による英語教育指導を実施しました	授業時間数 3,561時間	全中学校で、外国人の英語教育指導員が英語担当教員と連携して、1クラスあたり180時間の授業を行いました。
3	中学校部活動外部指導員の登録を実施しました	269人	地域の人々が自らの知識等を生かし、部活動に参加する生徒に対し技術指導できるよう外部指導員の登録をしました。

5 自己評価

< これまでの取組 >

< 今後の方向性 > 【拡充】

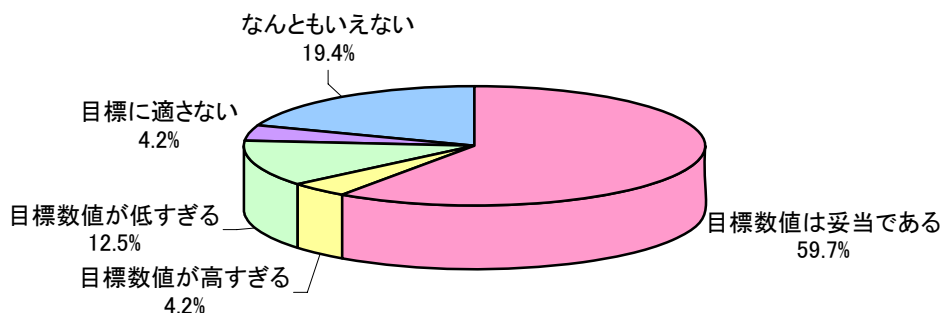
豊かな学校づくりのため「教職員研修」や「教育研究奨励」などの事業を推進した結果、児童・生徒の学力は向上していると考えられます。昨年度と比較しても、都学力調査結果において中学生は23区中昨年の5位から2位に都内49区市中では8位から4位に上昇しました。また、公立学校の在籍率の状況は、小学校は18年度88.7%、19年度90.2%と増加しました。反面、中学校は17年度64.2%、18年度63.2%、19年度64.3%とほぼ横ばい状況となっています。19年度は、事業の拡充を行い、各学校の活力ある学校運営や特色をもった教育活動に取り組み、各校において魅力ある「豊かな学校づくり」が実現できるよう、各事業を実施しました。

「杉並区教育ビジョン推進計画」に基づき、学校評価、第三者診断等による効果的な分析資料の提供や授業力・指導力向上、学校の課題解決力の向上などの支援を重点に、様々な施策を推進・展開していきます。また、既存の事務事業については、そのあり方やより効果的な執行方法等について見直しや拡充を行い、更に魅力ある「豊かな学校づくり」を推進していきます。

設問29～33は、別紙資料5をご覧になりながらお答えください。
 設問29 資料5の「1.目標」についてどのように思いますか。あてはまるものを1つだけ選んでください。

N = 72

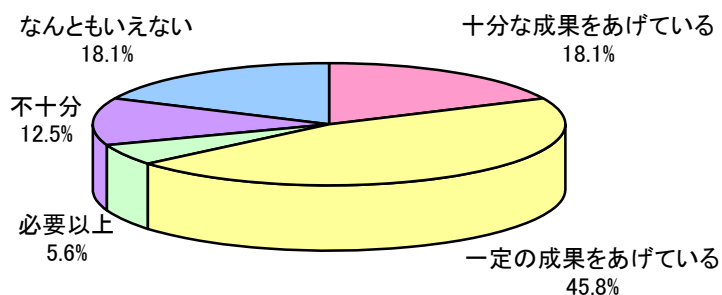
	全体		性別		10・20代	30・40代	50・60代	70代以上
	人数	割合	男性	女性				
① 目標数値は妥当である	43	59.7%	男性	24	1	13	4	6
			女性	19		11	8	
② 目標数値が高すぎる	3	4.2%	男性	2	1	1		
			女性	1		1		
③ 目標数値が低すぎる	9	12.5%	男性	2		1	1	
			女性	7	1	6		
④ 目標に適さない	3	4.2%	男性	3	1	2		
			女性	0				
⑤ なんともいえない	14	19.4%	男性	3	1	2		
			女性	11	3	7	1	



設問30 資料5の「2.成果」についてどのように思いますか。あてはまるものを1つだけ選んでください。

N = 72

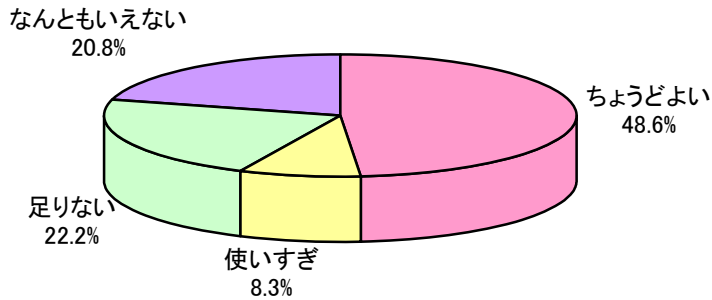
	全体		性別		10・20代	30・40代	50・60代	70代以上
	人数	割合	男性	女性				
① 十分な成果をあげている	13	18.1%	男性	8		5	1	2
			女性	5	1	2	2	
② 一定の成果をあげている (もう少し)	33	45.8%	男性	17	1	9	3	4
			女性	16		11	5	
③ 必要以上(やりすぎ)	4	5.6%	男性	3	1	2		
			女性	1		1		
④ 不十分	9	12.5%	男性	2	1	1		
			女性	7	1	5	1	
⑤ なんともいえない	13	18.1%	男性	4	1	2	1	
			女性	9	2	6	1	



設問31 資料5の「3.かかった費用」についてどのように思いますか。あてはまるものを1つだけ選んでください。

N = 72

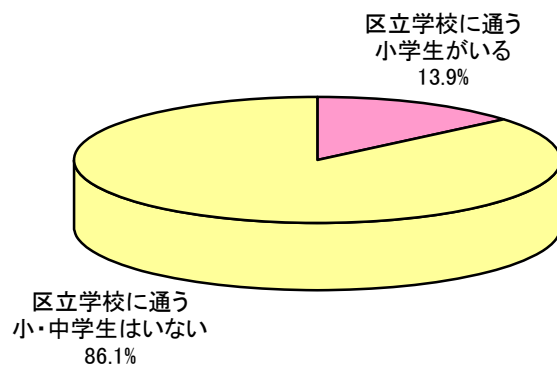
	全体		性別		10・20代	30・40代	50・60代	70代以上
	人数	割合	男性	女性				
① ちょうどよい	35	48.6%	男性	19	1	11	2	5
			女性	16		10	6	
② 使いすぎ	6	8.3%	男性	2	1	1		
			女性	4		4		
③ 足りない	16	22.2%	男性	5	1	2	2	
			女性	11	1	8	2	
④ なんともいえない	15	20.8%	男性	8	1	5	1	1
			女性	7	3	3	1	



設問32 あなたのご家族について、あてはまるものを1つだけ選んでください。

N = 72

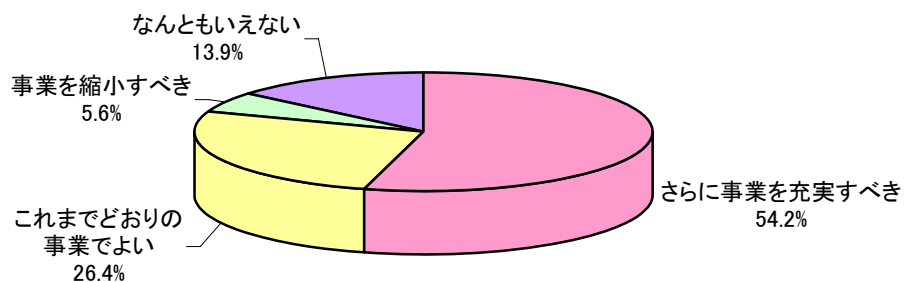
	全体		性別		10・20代	30・40代	50・60代	70代以上
	人数	割合	男性	女性				
① 区立学校に通う小学生がいる	10	13.9%	男性	4		4		
			女性	6		6		
② 区立学校に通う中学生がいる	0	0.0%	男性	0				
			女性	0				
③ 区立学校に通う小・中学生(両方)がいる	0	0.0%	男性	0				
			女性	0				
④ 区立学校に通う小・中学生はいない	62	86.1%	男性	30	4	15	5	6
			女性	32	4	19	9	



設問33 資料5の「5.自己評価」にある方向性についてどのように思いますか。あてはまるものを1つだけ選んでください。

N= 72

	全体		性別		10・20代	30・40代	50・60代	70代以上
	人数	割合	男性	女性				
① さらに事業を充実すべき	39	54.2%	男性	17	1	10	3	3
			女性	22	1	14	7	
② これまでどおりの事業でよい	19	26.4%	男性	12	1	6	2	3
			女性	7	2	4	1	
③ 事業を縮小すべき	4	5.6%	男性	4	1	3		
			女性	0				
④ なんともいえない	10	13.9%	男性	1	1			
			女性	9	1	7	1	



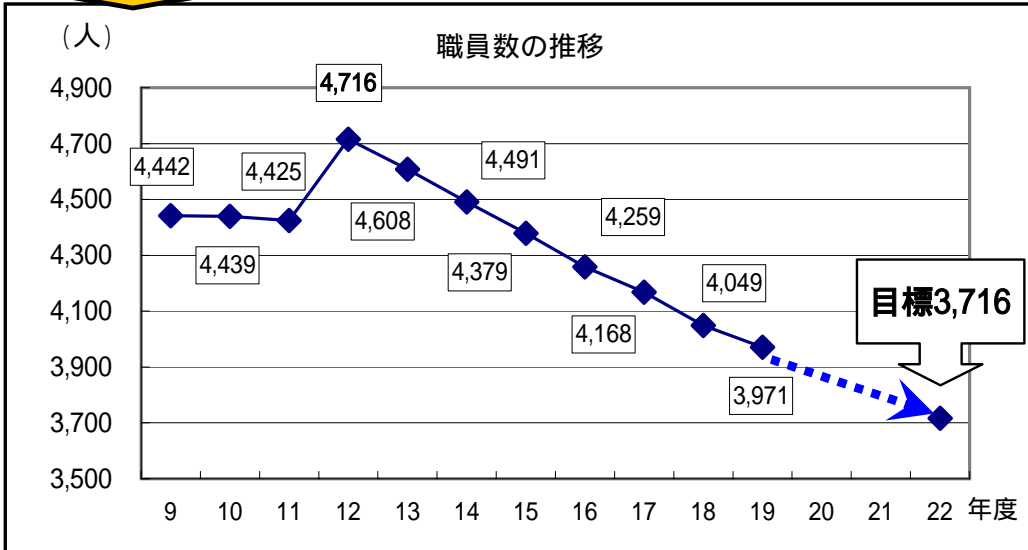
目的と概要

杉並区の将来像や目標を明らかにし、時代と社会の変化に機敏に対応しながら、効果的な政策形成を行います。質の高いサービスを効率的に継続して提供することができるよう、抜本的な区政の経営改革を推進し、「小さな区役所で五つ星のサービス」を実現します。

1 目標

職員定数を平成22年度までに1,000人削減します(12年度比)

2 成果

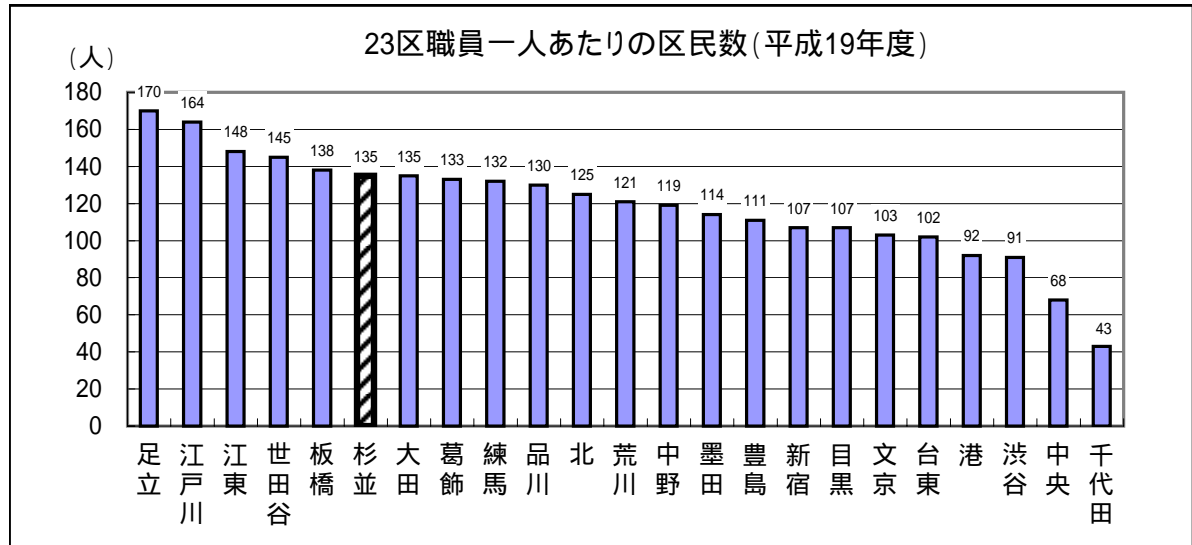


平成12年度に清掃事業が都から移管されたため、清掃職員が増加しています。その後、職員削減計画を着実に実施し、平成19年度までに745人の削減を行いました。当面の目標は、平成22年度までに、1000人削減の3716人を目指します。(平成12年度比)

また、杉並行政サービス民間事業化提案制度などを活用し、区が真に実施すべき仕事を明確化し、区民・NPO、民間企業等との協働、民営化や民間委託などを進めて、簡素で効率的な区政運営を実現します。

区が行っているすべての事務事業を対象に、民間事業者からの提案を受け、審査の上、適切なものについては民間事業者が公共サービスを担うという制度です。

職員一人あたりの区民数の23区平均は119人です。杉並区は現在6番目の135人ですが、職員数を1000人削減した場合、144人となる見込みです。



3 かかった経費

19年度にこの事業にかかった費用は、人件費と事業費を合わせて、約1億2千万円でした。計画の策定や内部管理事務が主なため、人件費が84%を占めています。

主な事業費として、杉並区実施計画・スマートすぎなみ計画(行財政改革実施プラン)の改定に約400万円、杉並行政サービス民間事業化提案制度の実施に約130万円、行政評価に約150万円となっています。

区民一人あたりの額

この事業 225円
区全ての事業 45万8千円

4 事業

<19年度に実施した主な事業>

番号	事業名(活動指標)	数量	内容
1	杉並区実施計画・スマートすぎなみ計画(行財政改革実施プラン)を改定しました		社会の変化や課題に適切に対応するため、平成20~22年度の実施計画と行財政改革実施プランの改定を一体的に行いました。(実施計画=176事業、行財政改革実施プラン=115項目)
2	杉並行政サービス民間事業化提案制度を実施しました		区の事業について企業やNPOから提案を募集し、これまで8事業を採択しました。19年度中に2事業の委託・協働が実現し、その他の事業についても実施に向けた準備を進めています。
3	全ての事業を対象に行政評価を実施しました	857事業	すべての事業を根本的に見直し無駄を省くとともに、限られた予算の効率的執行のための基礎資料とします。

5 自己評価

<これまでの取組>

<今後の方向性> 【拡充】

スマートすぎなみ計画(行財政改革実施プラン)に基づき職員数の削減を進めるなど、行財政改革に取り組みました。効果額は、平成12~18年度で約270億円となっています。

また、「めざせ五つ星の区役所運動」を実施し、区民満足度の向上につとめるとともに、行政評価の実施により、事業の目標や取組方法を見直し、成果を明らかにすることで区政運営の効率化を図っています。

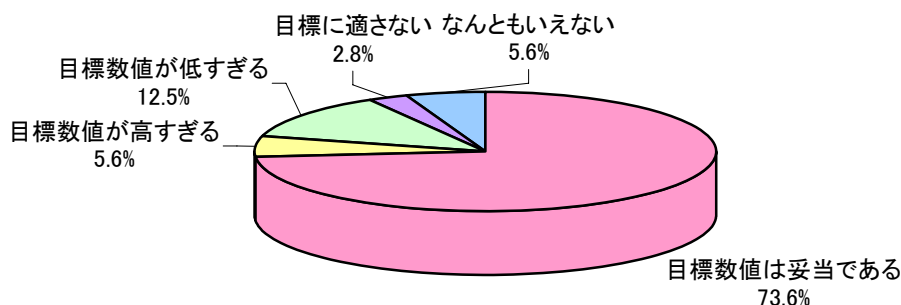
引き続き職員数の削減を進めていきます。また、杉並行政サービス民間事業化提案制度などを活用し、区民・NPO等との協働分野の拡大を図り、平成22年度までに区の6割の事業を協働や民営化・民間委託で実施するとともに、協働や委託業務への管理監督・指導体制を強化していきます。

設問34～38は、別紙資料1をご覧になりながらお答えください。

設問34 資料6の「1.目標」についてどのように思いますか。あてはまるものを1つだけ選んでください。

N = 72

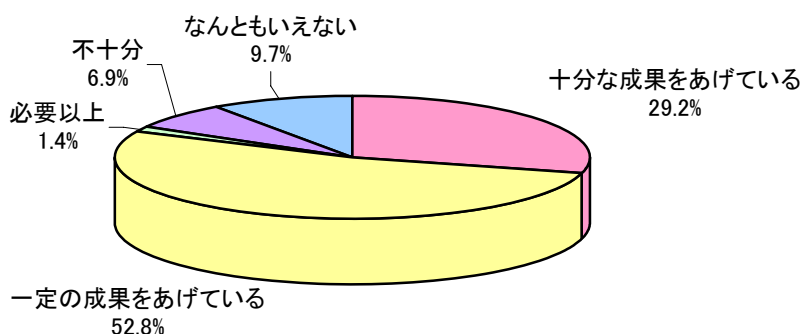
	全体		性別		10・20代	30・40代	50・60代	70代以上
	人数	割合	男性	女性				
① 目標数値は妥当である	53	73.6%	男性	24	2	13	3	6
			女性	29	2	19	8	
② 目標数値が高すぎる	4	5.6%	男性	2		2		
			女性	2		2		
③ 目標数値が低すぎる	9	12.5%	男性	5		4	1	
			女性	4	1	2	1	
④ 目標に適さない	2	2.8%	男性	2	1		1	
			女性	0				
⑤ なんともいえない	4	5.6%	男性	1	1			
			女性	3	1	2		



設問35 資料6の「2.成果」についてどのように思いますか。あてはまるものを1つだけ選んでください。

N = 72

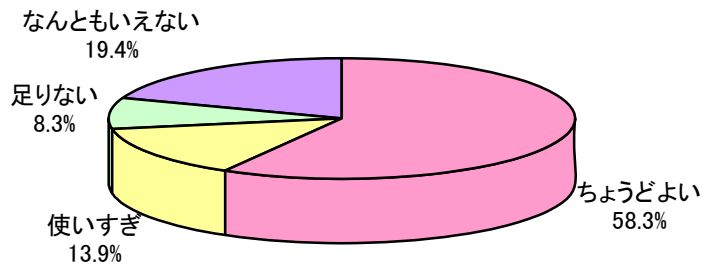
	全体		性別		10・20代	30・40代	50・60代	70代以上
	人数	割合	男性	女性				
① 十分な成果をあげている	21	29.2%	男性	8		5	1	2
			女性	13	2	7	4	
② 一定の成果をあげている (もう少し)	38	52.8%	男性	18	3	9	2	4
			女性	20	1	15	4	
③ 必要以上(やりすぎ)	1	1.4%	男性	1		1		
			女性	0				
④ 不十分	5	6.9%	男性	3		3		
			女性	2		1	1	
⑤ なんともいえない	7	9.7%	男性	4	1	1	2	
			女性	3	1	2		



設問36 資料6の「3.かかった費用」についてどのように思いますか。あてはまるものを1つだけ選んでください。

N = 72

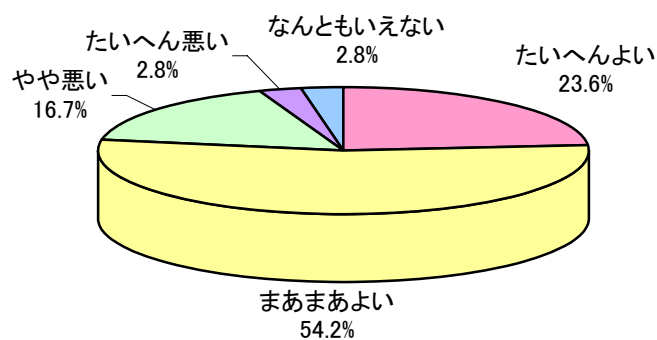
	全体		性別		10・20代	30・40代	50・60代	70代以上
			男性	女性				
① ちょうどよい	42	58.3%	男性	21	2	11	3	5
			女性	21	3	12	6	
② 使いすぎ	10	13.9%	男性	5		4		1
			女性	5		4	1	
③ 足りない	6	8.3%	男性	1	1			
			女性	5		3	2	
④ なんともいえない	14	19.4%	男性	7	1	4	2	
			女性	7	1	6		



設問37 区役所や区立施設での職員の対応について、どのように思いますか。あてはまるものを1つだけ選んでください。

N = 72

	全体		性別		10・20代	30・40代	50・60代	70代以上
			男性	女性				
① たいへんよい	17	23.6%	男性	9	1	6	1	1
			女性	8	1	4	3	
② まあまあよい	39	54.2%	男性	17	1	9	3	4
			女性	22		17	5	
③ やや悪い	12	16.7%	男性	5	1	2	1	1
			女性	7	2	4	1	
④ たいへん悪い	2	2.8%	男性	1	1			
			女性	1	1			
⑤ なんともいえない	2	2.8%	男性	2		2		
			女性	0				



設問38 資料6の「5.自己評価」にある方向性についてどのように思いますか。あてはまるものを1つだけ選んでください。

N= 72

	全体		性別		10・20代	30・40代	50・60代	70代以上
	人数	割合	男性	女性				
① さらに事業を充実すべき	39	54.2%	男性	19	2	12	3	2
			女性	20	1	11	8	
② これまでどおりの事業でよい	22	30.6%	男性	9		4	1	4
			女性	13	1	11	1	
③ 事業を縮小すべき	2	2.8%	男性	2	1	1		
			女性	0				
④ なんともいえない	9	12.5%	男性	4	1	2	1	
			女性	5	2	3		

